



当初予算などを審議した議会定例会3月会議

平成29年度施政方針 町民総参加の まちづくりの実現を推進

はじめに

平成29年平泉町議会定例会3月会議の開催にあたりまして、平成29年度の町政運営の基本方針および主要な施策について、所信の一端を申し上げます。

平成28年度の我が国の経済をみますと、アベノミクスの取り組みのもと、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、年度前半には海外での景気低迷がみられたほか、国内経済についても、個人消費および民間設備投資は、所得、収益の伸びに比べ力強さを欠いた状況となっております。

また、アメリカ新大統領の就任に伴うさまざまな動向にも留意する必要があります。その一つが、アメリカが離脱した後のTPPの先行きであり、それに伴う農政改革につきましては、非常に大きな問題となっております。

平成28年度の我が国の経済をみますと、アベノミクスの取り組みのもと、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、年度前半には海外での景気低迷がみられたほか、国内経済についても、個人消費および民間設備投資は、所得、収益の伸びに比べ力強さを欠いた状況となっております。

題であることから、今後も注視しなければなりません。

このような状況のもと、平泉町は、時代のすう勢を見定めつつ、町ならではの独自性を強く前面に押し出し、町民、さらにはその代表である議会との対話を一層重視・尊重しつつ、町民総参加の仕組みを構築し、さまざまな取り組みを進めてまいります。

平成29年度の予算編成につきましては、一般会計予算、特別会計予算、企業会計予算の総額は、69億6760万円余、対前年度比1.5%減となっております。このうち一般会計予算においては、対前年度比1.3%減の48億100万円となりまして、

歳入面では、町税、東北観光復興交付金事業に伴う国庫支出金が増となる一方、地域密着型サービス施設等整備補助金の減額に伴う県支出金が減となる見込みであり、地方債の発行に加え、財政調整基金およびその他の主要基金を一部

取り崩して必要な財源を確保したところであります。

歳出面では、スマートインターチェンジ整備事業や新設1路線を含む4路線の町道整備事業を行うほか、東北観光復興交付金事業、産業振興、雇用対策、防災対策に取り組みます。

また、各種予防接種・検診に併せて、町単独医療費助成事業を拡大するなど子育てにやさしい住みやすい環境づくりに重点を置き予算配分を行いました。

特別会計では国民健康保険特別会計において、被保険者の減少に伴う保険給付費の減少などに伴い対前年度比4.8%減の9億9470万円余、簡易水道事業特別会計において、一関市舞川地区配水管布設工事を一関市負担により実施することから、対前年度比22.7%増の2億510万円余といったしました。

限られた予算ではありますが、まちの将来像「やすらぎと文化を

道の駅の開業

おりなす千年のまちづくりの実現に向け、新平泉町総合計画に基づき、事業の重点化を図り予算編成に配慮したところであります。

新平泉町総合計画基本構想には、「やすらぎと文化をおりなす千年のまちづくり」という将来像を実現するため、戦略1「町民と行政が共につくる協働のまちづくり体制の確立」、戦略2「やすらぎと文化のまちづくりの推進とその特色を活かした交流のまちづくり」、戦略3「多くの町民が強く望んでいる安全・安心なまちづくりの推進」と「浄土のまち平泉プロジェクト」が、主要施策を横断的に取り組む3つのまちづくり戦略と1つのプロジェクトとして位置付けられております。

また、具体的な基本目標が6つ設けられておりますが、これらの実現に向けて、積極的に取り組んでまいります。

平成29年度は、新平泉町総合計画後期基本計画の2年目にあたります。今後4年間、将来像の実現に向けて、全力を挙げる所存であります。

重点施策

次に、平成29年度の基本施策において、重点的に行う施策について申し上げます。



整備された浄土の拠点施設

スマートインターチェンジの整備

道の駅平泉につきましては、世界遺産登録の効果を農業そして商業に波及させ、経済的に豊かな地域づくりに役立てる役割を有しておりますが、いよいよ4月下旬に開業いたします。

平成29年度につきましては、地域農業者や商工業者などによる出荷者の支援を積極的にを行い、運営が安定するように努めてまいります。

浄土の拠点施設の開業

浄土の拠点施設につきましては、宿泊や体験などができ、さらに平泉の浄土思想やさまざまな情報を発信する施設として、地方創生加速化交付金により整備を推進してまいります。本年度は、引き続き整備を進め、指定管理者を選定し、開業を目指してまいります。



スマートインターチェンジ周辺の航空写真

若者の定住化対策と産業の育成

若者の定住化対策と産業の育成

（仮称）平泉スマートインターチェンジの整備につきましては、地域の観光振興に大きく寄与し、高田前工業団地から高速道路へのアクセス距離が短縮され企業誘致を推進するものであることから、地権者のご理解・協力を得ながら、工事着手し早期完成に努めてまいります。

につきましては、経済波及効果や雇用創出力の高い製造業を中心とした企業立地に向けて、県や関係機関との連携強化を図りながら迅速な企業情報の収集と誘致活動を実施するとともに、農業、商工業、観光の各産業間での活発な連携による産業振興の取り組みや起業家支援を進め、働く場の確保を通じて若年層や後継者の定住を促し、安心して暮らし続けることができるとともに、まちの実現を目指してまいります。

子育て支援につきましては、少子化対策の一環となるよう、安心して子どもを産み育てられる環境づくりとして、妊婦健診および予防接種の公費助成の継続、家庭訪問や来所相談、歯科衛生教育など母子保健の充実を図り、妊娠時期から子育て時期まで切れ目のない相談支援ができるよう体制整備に取り組んでまいります。

町民総参加のまちづくりの推進

町民総参加のまちづくり体制の確立につきましては、多くの町民が意見などをまちづくりに反映し主体的にまちづくりに参加できるように、さまざまな機会を捉えて懇談会を開催するとともに、各行政区単位での地域懇談会も行い、町民との直接対話によるまちづくりを推し進め、町民と行政の意思疎通に努めてまいります。

子育て支援と医療・福祉の充実

また、不妊に悩む夫婦への支援としての不妊治療助成制度につきましては、制度の周知に一層努めてまいります。